

地区説明会要旨

- 1 説明会 新しい一般廃棄物処理施設整備に関する地区説明会
- 2 開催日時 令和6年11月9日（土）午後6時から午後7時45分まで
- 3 開催場所 弥栄市民センター平沢分館
- 4 参加者 弥栄地区の住民26人
(傍聴者は、一関市議会議員1人 岩手県議会議員1人)
- 5 事務局
一関地区広域行政組合 佐藤正幸事務局長、吉田健次長兼総務管理課長、
菊池弘施設整備係長、櫻田亮介主任主事
一関市建設部道路建設課 佐藤義亮道路建設課長 鈴木竜也舗装橋梁係長、
小野寺裕生主任主査
〃 農林部農政推進課 佐藤雅弘農政企画係長、熊谷祐樹主任主事
〃 林政推進課 小山敏典林政推進課長、
小野寺知之課長補佐兼林業振興係長、佐藤紳也主査

6 あいさつ

本日はご多用の中、説明会へ参加いただいたことに対し感謝を申し上げます。

施設整備については、令和6年3月に土地を取得し、建設予定地として場所を確定したところであり、その後、地元の住民組織である一般廃棄物処理施設整備計画対策協議会様との意見交換を重ねてきたところであるが、施設整備の全体計画やこれからの予定について、弥栄地区の皆様への説明の機会を求める意見があり、このような場を設けたところである。

7 説明内容

- (1) 新しい一般廃棄物処理施設整備の概要と今後の予定について
配布資料に沿って総務管理課が説明を行った。
- (2) 新しい一般廃棄物処理施設へのアクセス道路計画について
配布資料に沿って道路建設課が説明を行った。
- (3) 余熱活用について
配布資料に沿って農政推進課及び林政推進課が説明を行った。

8 質疑応答

参加者 熱利用計画における農業利用について、市が土地を取得して農業用温室ハウスを建てる計画のようだが、土地が取得できなければ計画を断念するのか。

農政推進課 現在は候補地の一つとして考えているものであり、土地の提供をいただけたら

い場合や調査の結果適地とならない場合は、また別の場所を検討していく。

参加者 供給する熱量は確定しているようだが、場所が変わった場合は施設側で出す熱量も変わるのか。

総務管理課 施設から出す熱量は一定の量であり、場所によって変更しない。施設から離れるほど熱効率は悪くなるためできるだけ近隣が良い。場所が変わった場合でもその場所での熱量でできる事業として検討する。

参加者 組合が昨年度行った余熱活用の採算性などを調査した結果では、農業用温室ハウスと木質チップ乾燥で約1,000 tの二酸化炭素の削減効果があるとしているが、木質チップ乾燥の実施が難しい場合はどのくらい減るのか。

総務管理課 全体の熱使用の見込みとしては農業用ハウスの方が熱の利用が大きく、木質チップ乾燥は少ない。木質チップ乾燥を行わない場合は二酸化炭素の削減量が減るが、減る量はそれほど大きくならないと見込んでいる。

(調査の結果確認後に改めて回答)

調査の結果による二酸化炭素削減の内訳としては、農業用温室ハウスが年間約956 t、木質チップ乾燥が年間約77 tとなっている。

参加者 交差点改良の計画はこれで決まったものか。それともこれから更に話し合いしていくものか。

道路建設課 計画については、説明会や一般廃棄物処理施設整備計画対策協議会での意見交換を踏まえて現在の形としたものである。計画に付随する路面表記の内容など細かいところはこれからの部分もあるが、基本的な計画としてはこれで進めていくものである。

参加者 これまで話し合ってきた中で、地元の意見があったのか、最初からこの内容となることを決めていたのではないかという思いがある。

道路建設課 協議会との話し合いを4回実施してきた中で意見を反映させてきた結果であり、ご理解をいただきたい。

参加者 以前に説明会で意見を述べたことがあるが、啓発施設として子ども達が学びに来たくなるような、目を引くような建物の設計となるようにしてほしい。

総務管理課 今回の施設整備では、マテリアルリサイクル推進施設の中で学習・啓発ができる整備とする計画にしている。概要としては、現在の一関清掃センターリサイクルプラザで行っている内容を基本として、施設の仕様の中で条件を設定し、事業者側に提案を求めることとしている。詳細については、事業者からの提案内容により、より良いものを採用していく考えである。小学4年生が環境学習を行うことから、その年代が分かりやすいような形として検討している。

また、施設の見た目については、環境影響評価の結果により、周辺環境に配慮した内容として事業者に提案を求める。

参加者 農業用温室ハウスについて、市で造成し施設を整備する場合に、事業者はどのような方法で決めるのか。入札といった形であると地元で参加しづらくなるのではないかな。

農政推進課 具体的な方法はこれからだが、基本的には公募という形で考えている。

公募の際は審査基準を設定する。地元優先の考え方についても要望があれば検討させていただきたい。

参加者 学習・啓発については、ハードよりもソフトの方が大事だと思う。施設で温水を引き込み、子ども達の実験に使えるようなものがほしい。

総務管理課 ご意見を踏まえて、実際にどこまでできるか検討する。

参加者 温暖化防止の一環として、施設での焼却を減らすため、ごみの再利用を進めるための対策や、学校や住民へ見学、説明の機会を増やしてほしい。

総務管理課 ご意見のとおりごみの減量化は進めていくべきものと考えている。今回の施設整備に併せて、ごみの分別の仕方について、変更を考えている。

令和4年4月に施行されたプラスチック資源循環法は、自治体でプラスチックの資源化を進めるよう求めている。当組合でも、現在は菓子袋などの容器包装プラスチックを資源ごみとして回収しているが、さらにハンガーや洗面器などの製品プラスチック廃棄物についても資源ごみとして併せて回収する計画としている。

このほか一関市の取組として、年1回、古着の回収を行っているが、組合としてごみの分別に組込み、資源ごみとして収集することで、燃やすごみを減らしていくことを考えている。

減量化を啓発していくことについては、組合としても構成市町である一関市、平泉町と併せて取り組んでいく考えである。

参加者 ごみの分別や減量化の取組が行われることについて、積極的に周知してほしい。

文字で書いたものは見ないことが多い。説明会でも1回や2回程度では伝わらない。何回も続けていく行動力を見せてほしい。

総務管理課 施設整備についてこれからも周知、説明は続けていくことになると考えている。また、現在でも当組合の一関清掃センターや大東清掃センターが、市の主催する住民との会合の機会などに合わせて、ごみの出し方の勉強会などを実施しているところである。

それに加えて、施設整備に伴って変わるごみの出し方についても、時期を見て積極的に周知してまいりたい。

参加者 堆肥化設備について、啓発用で公共機関の生ごみを想定しているとのことだが、将来的には量を増やしていき、大規模に処理できるようにしてほしいと考えているがそういう計画はあるか。

総務管理課 堆肥化設備については、生ごみが堆肥という資源物として活用できることを周知する啓発目的として、日量100kg程度の規模の処理能力を想定している。

施設稼働当初としては、不適物が入りにくい給食センターからの生ごみを考えているが、実際の稼働状況を見ながら、将来的に例えば家庭からの持ち込みなども対応できるよう考えていきたい。

参加者 市道一ノ沢釜ノ沢線からの水田への進入路は右側の方がよいと思う。

道路建設課 図面上は左側としているが、実際の工事の際に土地所有者の意向を聞きながら対応したい。

参加者 令和3年に行った施設整備検討委員会の資料では、熱利用計画として電気自動車の電気スタンドなどの導入の記載がある。今回にはないがその考えはなくなったのか。

総務管理課 余熱活用の検討については、施設整備検討委員会でワーキンググループを設置し、「産業」、「福祉・教育」、「防災」、「環境」の分野で検討してきた。

その中では温浴施設や紙おむつの再生工場など様々なものを検討してきた。

その結果、熱量や費用、「将来の世代の役に立つもの」というテーマから実現性の高いものとして「農業利用」、「防災機能」の2つについて検討を進めることとしたところである。

参加者 堆肥化設備について、学習啓発として見学できるようにしてほしい。家庭の生ごみを自宅で堆肥化できるということが進めば、相当量の二酸化炭素の削減ができるものと思う。

総務管理課 設備を直に触れたりすることは安全上の課題もあるが、見学の動線において見ていただくことができるよう検討する。また、出来た堆肥を使っていただくことも大事なことであり、堆肥の利用についても今後お知らせしていきたい。

参加者 国道284号の交差点改良について、横断歩道や信号の設置は公安委員会の管轄であるとの説明を受けている。組合や市としても設置できるよう要望対応していくとのことだが、これからも「設置しない」ということにならないようにしてほしい。

実際に事故が起きている場所でもあるのでデータだけで判断できるものではないということを理解いただき、実現に向けて動いてほしい。

道路建設課 組合、市としてこれまでも一関警察署交通課に協議をしてきた。6月に行っ

た協議では、設置しないということではなく、設置についての基準や、施設稼働後の状況により判断すると伺っている。

地元PTA、交通安全協会などと一丸となって要望していくことも必要と考えているので今後とも協議してまいりたい。

参加者 指定ごみ袋について、他自治体では指定ごみ袋でなくても回収しているという事例がある。住民に負担がかかっているのに透明な袋であれば回収するなど、柔軟な対応ができないか。

総務管理課 指定ごみ袋については、お話のとおり住民の負担となるだけでなく施設において処理する際に破いた袋自体がごみとなっている。

これらの課題に対応するため、本年度に9カ所のごみ集積所と一関市役所本庁舎と藤沢支所の2カ所を拠点として、コンテナ回収実証試験を行っている。

応募や推薦があった9カ所の集積所にコンテナやネットを設置し、実際に回収を行って課題などを検証したいと考えている。

期間は10月から12月までの3か月を予定しており、その結果を踏まえて検証していくものであり、ごみの資源化や減量化につながる方法を考えたい。

参加者 コンテナで回収する場合は袋はいらないということか。

総務管理課 お話のとおりである。今回の実証試験では、缶、びん、ペットボトル、容器包装プラスチックの資源ごみを対象としている。他自治体の状況を踏まえ、当組合でできる内容を検討していく。

参加者 市が土地を取得して余熱活用をするとのことだが、将来的に余熱活用をやめてしまう場合も考えられることから、取得ではなく土地賃借による方法なども考えてほしい。

現在考えている候補地の道路向い側の土地も利用し、休憩施設などの検討もしてほしい。

花泉に抜ける道路については、ルート検討の段階から地元の意見を取り入れてほしい。

道路建設課 花泉に抜ける道路のルート検討については、お話のとおり地権者の方と地域の皆様の意見を聞きながら検討していく考えであるのでよろしく願います。

参加者 夜間のごみ収集は考えているのか。

総務管理課 現在、ごみ収集は日中に行っており、夜間は行っていない。夜間の車両通行や作業となると安全上の問題や、近所迷惑にもなりかねないため考えていない。

総務管理課 冒頭の説明のとおり、施設整備については、これから立木伐採や敷地造成工事を進めるとともに、交差点改良についても用地測量や土地売買、工事発注の手續

きを進める予定である。

実際に工事に入る際には、予め周辺住民の皆様には説明、話し合いをしながら進めていくのでご協力をお願いします。

10 担当課 総務管理課